

# 当院の溶連菌迅速検査 陽性症例の臨床検討

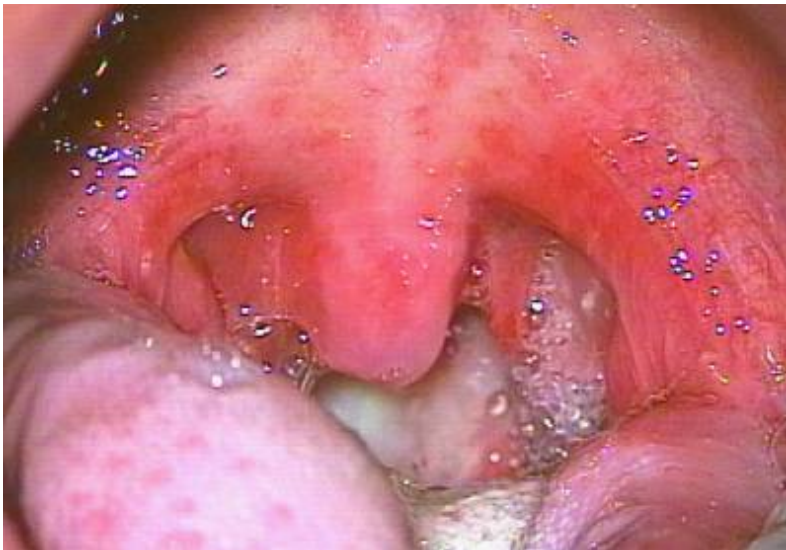


新潟県上越市  
おひさま耳鼻咽喉科  
五十嵐 良和

# はじめに

溶連菌感染症は 発熱・強い痛みをともなう咽頭炎  
扁桃炎、扁桃周囲膿瘍を発症するという印象を持っていた。

開業後、発熱や咽頭炎所見がはっきりしない陽性症例を経験  
するようになり、溶連菌感染症の多様性を実感。



そこで  
当院の迅速検査陽性症例の  
臨床所見をまとめてみた。

# 溶連菌感染の症状が多彩なことを示唆された家族

子供 7歳 朝方の咳



10歳 鼻つまり



母親 咽頭痛



三人とも発熱なし  
咽頭発赤 母親のみ  
全員溶連菌陽性

# 対象と検討項目

期間 2010年11月～2011年2月

溶連菌迅速検査施行 389例

陽性 88例(22.6%)

## 検討項目

陽性症例の年齢分布、週別推移

臨床所見の発現率(10歳以上と未満)

印象に残った症例を紹介しながら提示

# 使用した溶連菌迅速検査キット 培養法との比較データ

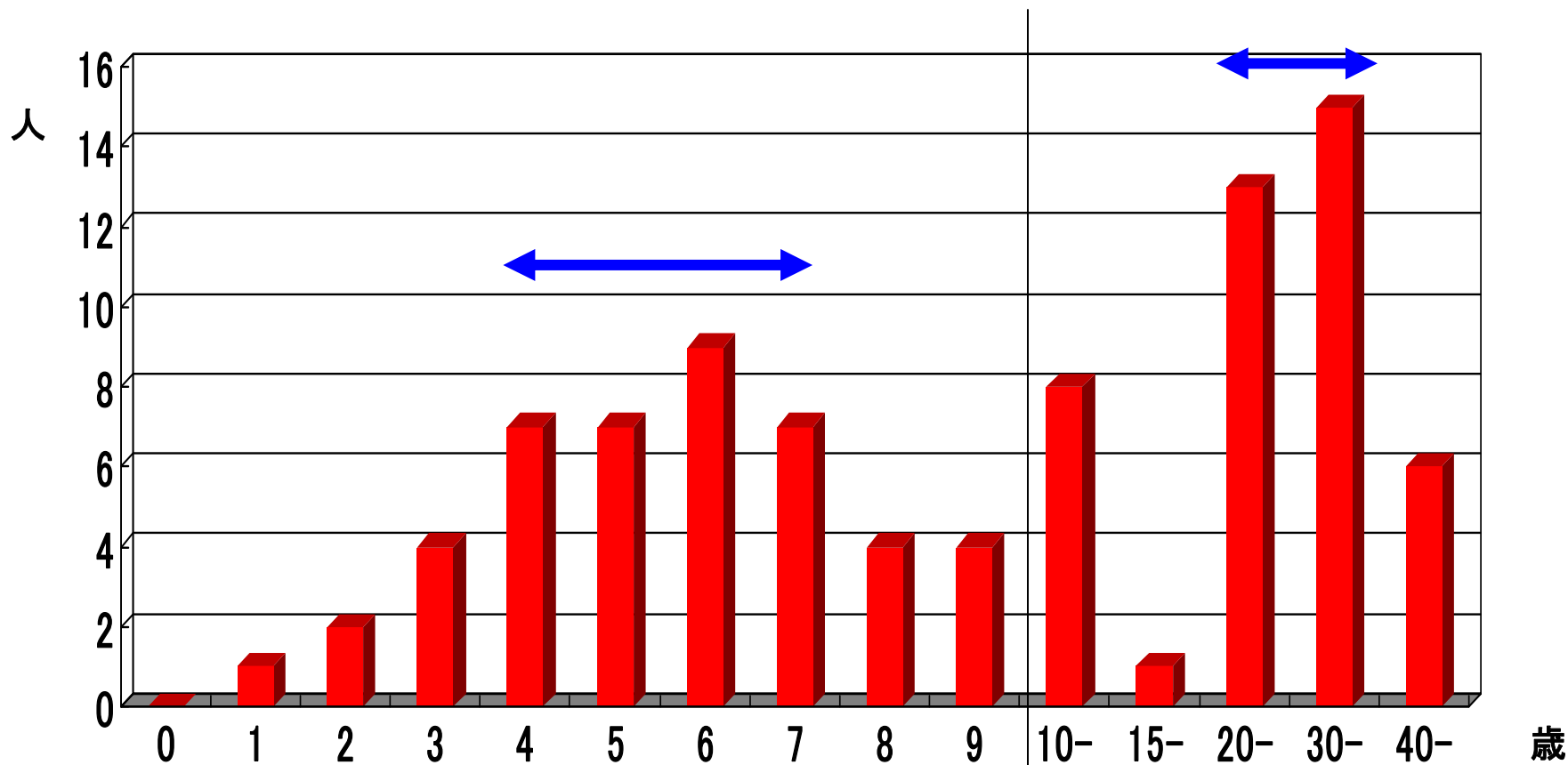
		培養法		合計
		陽性	陰性	
本品	陽性	34	0	34
	陰性	2	64	66
合計		36	64	100



感 度 :  $34/36 = 94.4\%$   
 特異度 :  $64/64 = 100\%$   
 一致率 :  $98/100 = 98.0\%$

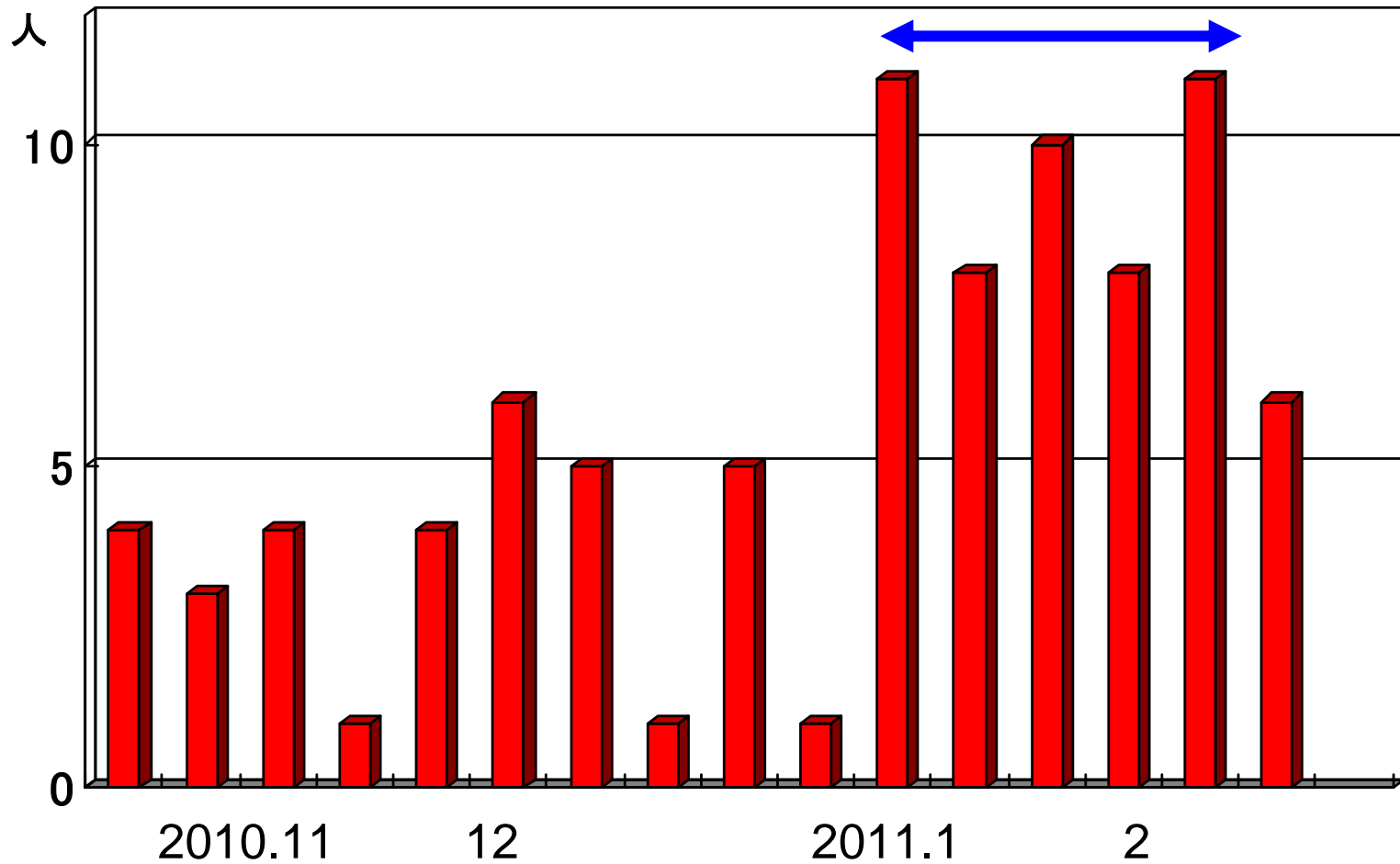
川上小夜子他, JARMAM, 第14巻, 9-16頁, (2003年)

# 陽性症例の年齢分布



好発年齢 4-7歳の小児 と 20-30歳

# 陽性症例数の週別推移



降雪にともない増加

臨床所見について  
いくつかの症例を呈示



## 4歳 主訴 朝の痰 鼻つまり

幼少時から中耳炎 副鼻腔炎を繰り返している

体温 37.3度

鼻腔所見良好だが

咽頭粘膜の

発赤腫脹強い

溶連菌陽性



# 12歳 主訴 首のリンパ節腫脹

風邪症状のあと

両側頸部に複数のリンパ節腫脹+

発熱なし

咽頭所見良好

しかし

迅速検査陽性



# 9歳 主訴 右耳の痛み 発熱

右中耳炎



迅速検査 陽性

咽頭粘膜発赤あり



中耳炎でも咽頭の観察が重要であることを感じさせられた

# 急性中耳炎の溶連菌陽性率

---

2010年11月から

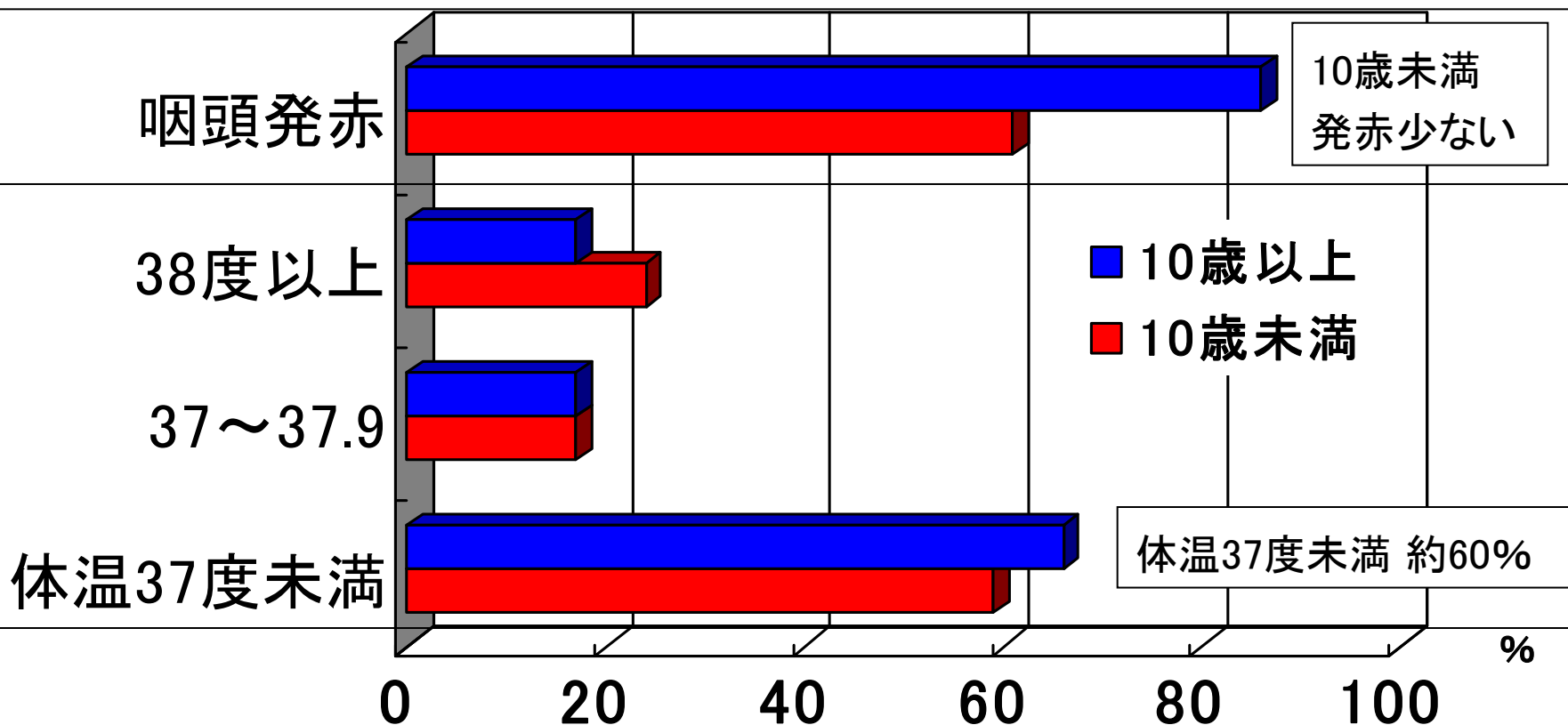
2011年3月7日までの  
小児急性中耳炎症例で追加検討

溶連菌検査施行 12件

陽性 5件      陽性率 41.7%

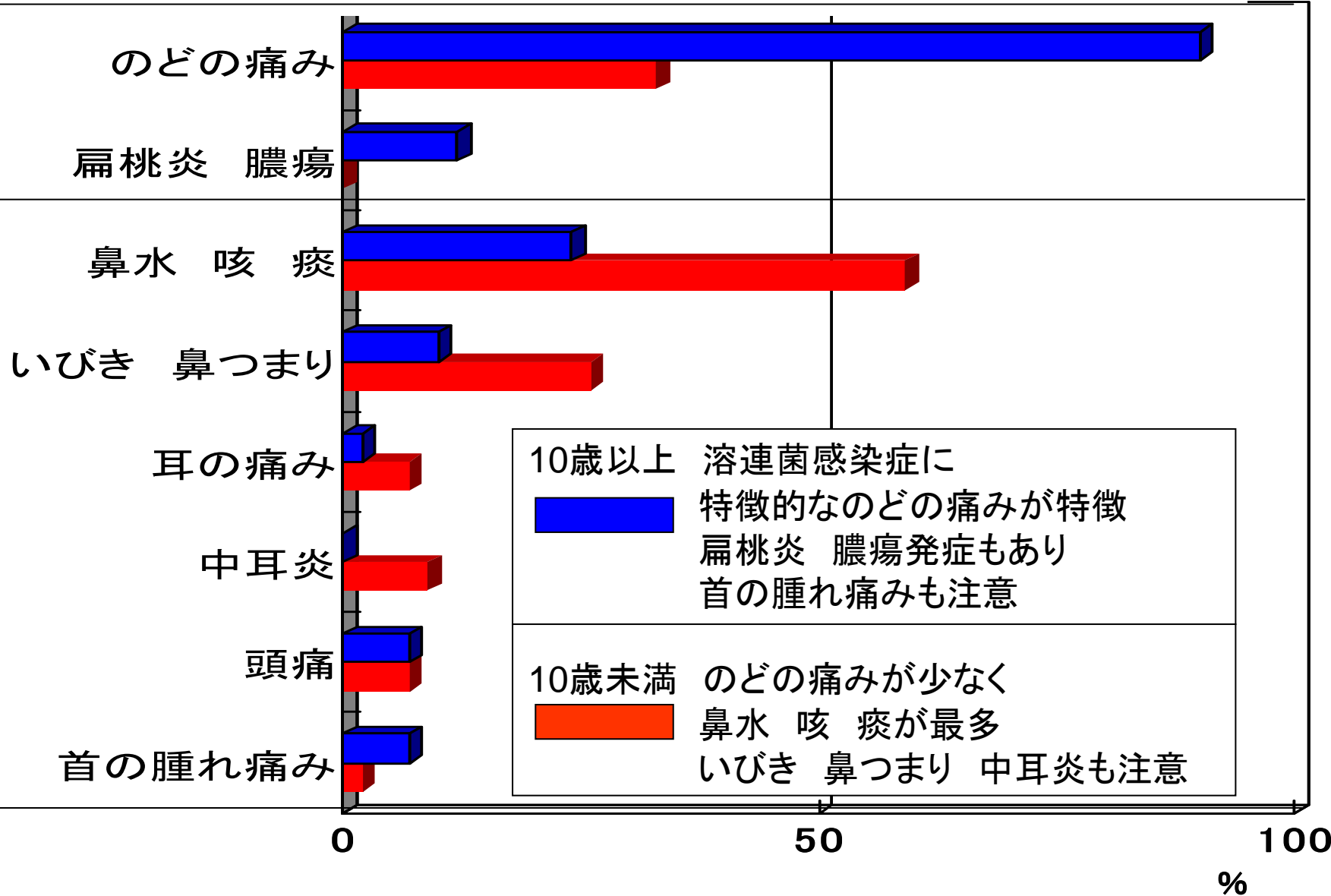
# 臨床所見の出現率

# 咽頭粘膜発赤と発熱について



溶連菌感染症に典型的とされる  
咽頭発赤・発熱はむしろ少ない？

# その他の臨床所見



# A群溶血性連鎖球菌感染症について

---

- ・ 咽頭炎、膿痂疹、蜂巣織炎、まれに猩紅熱。他に中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髓炎、髄膜炎などを起こす。また、免疫学的機序を介してリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こす。
- ・ 学童期小児に最も多く、3歳以下や成人では典型的な臨床像を呈する症例は少ない。
- ・ 学校での咽頭培養を用いた研究によると、健康保菌者が15～30%と報告されているが、健康保菌者からの感染はまれと考えられている。

国立感染症研究所感染症情報センターHPより抜粋



溶連菌感染症では腎炎を予防するため  
抗生剤による徹底的な除菌が標準治療とされる

## 溶連菌感染後急性糸球体腎炎

出現頻度0.5%～1%

5～12歳に多く、3歳未満はまれ

感染後2～3週で発症することが多い

急に尿が出なくなり、むくみや血尿が見られる

血圧が高いと頭痛やけいれん

対策として発症後3週以降に尿検査

溶連菌陽性小児への標準的な抗生剤投与

(ペニシリンやセフェム) 10日から14日間

自宅療養は2日間が目安

# 9歳 主訴 鼻水 いびき



発熱なし

鼻腔所見良好

咽頭発赤軽度

溶連菌陽性

溶連菌が常在している可能性も？

抗生剤を投与するかどうか悩む場合も？

# まとめ

今回の検討でわかったこと

- 1 溶連菌感染症の症状は多彩
- 2 小児では 鼻水 咳 鼻つまり いびき に要注意  
(中耳炎 頭痛 首のリンパ節腫脹も)

対策として

- 1 のどの症状がなくとも咽頭を観察
- 2 受診以前の発熱、咽頭痛の有無を確認
- 3 溶連菌迅速検査による確認
- 4 陽性小児には原則抗生剤を10日間処方
- 5 さらに検尿をおこなえる体制を整備